レベル４で全員避難　防災気象情報のポイント（代替テキスト）

政府広報のロゴマーク。あしたのあなたのために、政府広報と表示されている。

（♪緊急を告げる音）

気象予報士の羽田優里奈さん「ただいま、山田川にレベル 4 氾濫危険警報が発表されました。」
画面左側に女性の気象予報士が映っており、右側に暴風雨にさらされている街の様子が動画で流れている。動画の下部には危険警報を再現したイメージと書いてある。

羽田さん「豪雨や台風のとき、いつ避難すればいいのか、迷ったことはありませんか。防災気象情報は新しくなりました。キーワードは“レベル”。レベル 4 で全員避難です。」
5 段階の警戒レベルと 4 種類の災害（河川氾濫・大雨・土砂災害・高潮）に対応する気象情報名称を示した表が表示されている。警戒レベル 5 相当は各災害の特別警報、警戒レベル 4 相当は危険警報、警戒レベル 3 相当は警報、警戒レベル 2 は注意報、警戒レベル 1 は早期注意情報に対応。表の中央には『警戒レベル 4 までに危険な場所から必ず避難！』と表示されている。出典：国土交通省「防災気象情報の改善について」から政府広報室作成。

羽田さん「レベル 4 で全員避難。防災気象情報のポイント」
左側に紫色の大きな文字で『レベル 4 で全員避難』、その下に緑色の帯で『防災気象情報のポイント』と表示。右側には、母親・こども 2 人・父親の 4 人家族が非常用持ち出し袋や水、缶詰、ヘルメット、懐中電灯、ラジオ、くすり、軍手などを準備しているイラスト。画面下部右には避難する家族のイラスト。

羽田さん「近年、各地で発生する豪雨や台風による災害。命を守るために重要な情報が防災気象情報です。」
雨が降る中、道路を車が行きかう様子や、道路のマンホールから水があふれている様子、土砂災害により家屋が土に埋まってしまった様子を紹介する動画が流れている。

羽田さん「これまでの防災気象情報は、どの情報がどれくらい危険なのか分かりにくいという課題がありました。」
白いスーツ姿の女性が中央に立ち、頭上の思考バブルに『どれが危険なの？』と書かれている。周囲には『特別警報』『氾濫危険情報』『土砂災害警戒情報』『警報』『注意報』の 6 つの防災気象情報の名称が配置されている。

羽田さん「そこで、気象庁は防災気象情報を大きく見直しました。避難が必要な 4 つの現象に対し防災気象情報が警戒レベルに対応した形で発表されます。」
河川氾濫、大雨、土砂災害、高潮の４つの災害の様子が写真で紹介されている。

羽田さん「レベルは 1 から 5。色と数字で危険度を表しています。危険な場所から全員避難を呼びかけるレベル 4 危険警報が新たに設けられました。テレビなどでは、防災気象情報がレベルの数字とともに表示されます。」
タイトル『新しい防災気象情報の情報体系とその名称』の下に、警戒レベルと気象情報名称の対応表が示されている。列は左から「河川氾濫（1 級河川などの大河川の氾濫）」「大雨（低地の浸水や大河川以外の氾濫）」「土砂災害（急傾斜地のがけ崩れや土石流）」「高潮（海水面の上昇や波の打ち上げによる浸水）」の 4 種類。行は上から以下のとおり。警戒レベル 5 相当：各災害とも「レベル 5　特別警報（氾濫特別警報／大雨特別警報／土砂災害特別警報／高潮特別警報）」。警戒レベル 4 相当：各災害とも「レベル 4　危険警報（氾濫危険警報／大雨危険警報／土砂災害危険警報／高潮危険警報）」。表の中央付近には強調帯で「警戒レベル 4 までに危険な場所から必ず避難！」と記載されている。警戒レベル 3 相当：各災害とも「レベル 3　警報（氾濫警報／大雨警報／土砂災害警報／高潮警報）」。警戒レベル 2：各災害とも「レベル 2　注意報（氾濫注意報／大雨注意報／土砂災害注意報／高潮注意報）」。警戒レベル 1「早期注意情報」が全列共通で表示。出典：国土交通省『防災気象情報の改善について』から政府広報室作成。

羽田さん「警戒レベルは災害の危険度ととるべき行動を示しています。新しい情報は警戒レベルの数字と合わせています。」
タイトル『災害の危険度ととるべき行動』と題された、警戒レベルと避難行動の対応表。左端に危険度の高低が示され、レベルは 4 段階。

- レベル 5：市町村　避難情報等＝緊急安全確保 ／ 気象庁　防災気象情報＝レベル 5 特別警報
- レベル 4：市町村　避難情報等＝避難指示 ／ 気象庁　防災気象情報＝レベル 4 危険警報
- レベル 3：市町村　避難情報等＝高齢者等避難 ／ 気象庁　防災気象情報＝レベル 3 警報
- レベル 2：市町村　避難情報等＝避難行動確認 ／ 気象庁　防災気象情報＝レベル 2 注意報

各レベルには避難行動のイラストが添えられている。出典：国土交通省『防災気象情報の改善について（市町村防災担当者向け）』をもとに政府広報室作成。」

羽田さん「レベル 3 警報、高齢者などは避難。レベル 4 危険警報、全員避難。レベル 5 特別警報、命を守る最善の行動。レベルの数字を確認することで私たちは適切なタイミングで行動できるようになります。レベル４までに危険な場所から全員避難が必要です。」

羽田さん「これらの情報は、テレビやラジオ、スマートフォンなどで確認することができます。」
リビングで男女３名がテレビを見ている様子のイラスト。テレビ画面では河川が増水した様子が流れている。男性のうち１人はスマートフォンを手に持っている。

羽田さん「さらに、気象庁のウェブサイトでは、より詳しい情報が確認できます。特に雨による災害の危険度をリアルタイムで表示する「キキクル」を確認しましょう。」
気象庁ウェブサイト「キキクル」の画面が紹介されている。

羽田さん「情報を受けてすぐに行動するためには、普段からご家族で自宅付近の危険度をハザードマップで確認し、事前に避難方法や避難経路などを決めておくことが大切です。」
墨田区水害ハザードマップが紹介されている。
「『事前に避難方法や避難経路を決めておく』と書かれたタイトルバナーの下に、家族 4 人（母親・父親・子ども 2 人）が円卓を囲んで地図を確認している様子を描いたイラスト。母親は右手で地図に書き込みをしており、父親は右手で地図の一点を指し示している。周囲には５つの関連イラストが配置されており、左上に浸水した家屋、中央・上に缶詰などの非常食、右上に土砂災害の被害を受けた家屋、左下にラジオ、右下に懐中電灯が描かれ、避難時に必要な備えを示している。

羽田さん「避難する場所は、避難所だけではなく、安全な親戚や知人の家、ホテルなども活用しましょう。」
『避難する場所』と書かれたタイトルバナー。左側には、リュックサックを背負った大人 2 人と子ども 2 人の家族 4 人が､右方向を指差しながら歩いているイラストが描かれている。右側には避難先として 4 か所が 2 列 2 段の枠で紹介されており、左上が『小中学校』（校舎のイラスト）、右上が『公民館』（公民館の建物イラスト）、左下が『ホテルなど宿泊施設』（ホテルの建物イラスト）、右下が『親戚・知人宅』（一般住宅のイラスト）となっている。

羽田さん「新しくなる防災気象情報。大切なのは情報を知ること。そして早めに行動することです。気象情報を日頃から確認し、いざというときの備えにつなげましょう。詳しくは「新たな防災気象情報」で ss 検索。」